

「一手一つ」に心をむすび 創立120周年記念祭執行



国内外より744名参集

『本島の歴史は自分達に託されている』との決意新たに

(写真) 5月21日、記念祭では初めて参拝場内において帰参者全員の記念撮影が行われた

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268

天理教本島大教会

電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R220524-0529-30

奈良県天理市指柳町270-1

本島詰所 〒632-0093

電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>

Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間

【6月1日～8月31日】

朝づとめ 午前6時00分

夕づとめ 午後7時00分

本島大教会は5月21日、創立百二十周年記念祭を執り行いました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底させた上で、参拝者の限定は行わず、国内外より744人が参集しました。

世話人・宮森与一郎先生は急なご都合によりお入り込みが中止となり、おつとめは本島に繋がる者だけで真剣に勤められました。

記念祭は午前11時、大教会長祭主のもと親神様・教祖・祖霊様礼拝より始まり、続いて祭文の中で「本日創立百二十周年記念祭を勤めさせて頂くに当たりまして改めて元一日の理を心の要としてちば一条に心を揃えつとめとさづけの徹底を以て親孝心に励み、来たる教祖百四十年祭に向かつて一手一つに勇んで門出させて頂く決心でございます」と決意を奏上しました。

続いて座りづとめ・てをどりが陽気に勤められました。

当日の本島は最高気温23℃、天気は曇り、雨雲が四国にかかるものの瀬戸内は雨預かり、初夏の落ち着いた天気のもと、参拝者たちは心一つに「みかぐらうた」を唱和しました。

十二下りが終わった後、真柱様メッセージを大教会長が代読。続いて挨拶に立った大教会長は、予期せぬ事情は親神様が「子供可愛い故お見せ下さるふしである」と悟り、本島

に道を伝えて下さった佐藤栄佐先生の信仰信念に触れ、「来年1月くらいよいよ教祖140年祭三年千日の年祭活動が始まります。本島に繋がるお互いは、一手一つに成人の歩みを、明るく勇んで通らせて頂きましょう。」と呼びかけました。

コロナ禍3年目、数年ぶりに帰参することができた海外帰参者22名を含む744名の参拝者一同は、120周年のこの日から本島の歴史は自分達に託されているとの覚悟を胸に、決意を新たにしました。

なお、記念祭に先立ち、ご都合によりお入り込み頂けなくなった世話人宮森与一郎先生のメッセージを、大教会長が紹介。

「120年前、本島の人たちはどんな気持ちで名称を願ひ出たかを思い返し、どんな気持ちで各地へ世界へおたすけに向いたかを思いながらおつとめください」と、おつとめを勤める心の置きどころをお示し下さいました。

天理教本島大教会創立百二十周年記念祭における

真柱様メッセージ

(立教百八十五年五月二十一日)

真柱様メッセージは本島通信紙面のみ掲載いたします。
ご希望の方は、本島通信編集室までご連絡ください。

創立百二十周年記念祭あいさつ（片山幹太大教会長）

本日は本島大教会創立120周年記念祭にご参拝くださり誠にありがとうございます。ございます。

まず初めに、真柱様よりメッセージを頂戴しておりますので、拝読させて頂きます。

（真柱様メッセージ代読）

只今、真柱様より頂戴いたしましたお言葉は、私たち本島につながる一人ひとりに対するお言葉であると感じ止め、心に治めさせて頂き、皆で一手一つに陽気ぐらしへの歩みをこれからも進めてまいりたいと思います。

今日の記念祭には「帰りたくても

帰れません。残念です」というお知らせもたくさん届いています。そこでご参拝の皆様には、教会や自宅へお戻りになりましたら、帰参できなかった方々に今日のお話をお伝え頂きたいと思います。

そして今日帰参できなかった方には、ぜひ日を改めて各自で大教会創立120周年のご帰参を下さるようお願いいたします。そのためにもこのたび、「大教会にご参拝案内」のパンフレットを作成いたしました。ご活用頂けたら幸いです。

さて、只今から思いますことを三つお話させて頂きます。

まず一つ目です。

実はこのたびの記念祭に当たって、これまで通り真柱様のお入り込みの希望がかなうと信じておりましたが、お入り込みがないとの連絡が3ヶ月前にございました。

さらに世話人宮森与一郎先生のお入り込みが決まっておりますが、4日前に急なご都合から参拝できないとの連絡も重なりました。

ゆえに今回の記念祭は初めて、本島に繋がる者だけで勤めさせて頂くこととなりました。

正直申し上げて、はじめ私自身は心が晴れず、いろいろと思案をさせて頂く中で、思い浮かんだことは明治20年陰暦正月26日、教祖50年のひながた最終日の出来事のことです。

誰しもが、教祖のお急き込み下



さったおつとめを勤めさせて頂いた

のだから、教祖はまたお元氣になられ、115歳の定命まで居てくださると信じて疑わなかったところ、現身を隠されるという大節となりました。

その時、おさしづにて

「子供可愛い故、を、やの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで」とお仕込み下さいました。

つまり、私たちにとつて予期せぬ一見不幸な事情は、「子供可愛い故」お見せくださるふしであるということです。

このたび真柱様のお入り込みがない、世話人先生をはじめ来賓のお入り込みもないということは、まさに我々だけで心を一つに揃えておつとめを勤めることになります。本島に繋がる者同士、心を配り合うことが、いま親神様が求められていることではないかとの思いに至りました。

3年前から「一手一つ」を成人目標に活動を進めてきました。

この私たちの思いを親神様がお受け取り下さり、今日を用意して下さいた親心ではないかと思っています。

この後も皆様方と共に陽気ぐらしに向かつての語り合いをさせて頂き

たいと思います。

二つ目は、片山好造会長様を始め多くの本島の先人にこのお道を伝えて下さった布教師・佐藤栄佐先生のことです。

佐藤栄佐先生は、ご自身の事情や身上を経験された上で、本島で布教を始められました。

その佐藤先生の胸の内について、次の言葉が残されています。

「せめてこの道の信仰を、たった一人の人でもいいから、本当に伝えて死にたい」

一人です。多人数でなくてもいい。本島の道の始まりは、「一人にこの本当の教えを伝えるのだ」という思いから出発しているということです。

私たちは世界に向かって大勢の人々に声をかける、心をつないで行くことはもちろんですが、今日の記念祭の日当たって、誰か一人に本当の教えを伝えるのだ、という決意を誓い合いたいと思います。

佐藤栄佐先生のように「命がけ」となると大げさに思えるかも知れませんが、真剣に丹精させて頂きたいと思う次第であります。

三つ目は、初代を始め先人・先輩方の信仰姿勢についてです。

本島の先人先輩方は、真柱様、上級の教会長様の声に心を合わせ、どのようなことがあってもついていくという信仰信念でありました。

それを片山好造先生は「親孝心」と仰せられています。

本島の信仰と言えば「親孝心」が最も相応しい言葉ではないかと思えます。

どうかお互いに、今日戴いた真柱様のお言葉を我が事として、「我が心の成人のために頂戴したんだ」このお言葉に心を合わせ、どんなことがあってもついていくんだという心を定めて、これからも前進して行きたいと思います。

そして来年1月からいよいよ教祖140年祭、三年千日の年祭活動が始まります。本島に繋がるお互いは、「一手一つ」に成人の歩みを、明るく勇んで通らせて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)



創立百二十周年記念祭 祭典役割

献饗長 片山勲
伝 供 齊藤カーレン・西山道
教・岡崎マローン・大西知・久
尾マーク・篠原丕王・永山晴明・
奥村龍夫・伊東康成・片山和信・
吉田知彦・長瀬充憲・宮路和徳・
茶屋原良昭・鎌田典夫・山下英
久・溝口晋太郎・西森正昭・川
山幹太郎・奥村由多加・片山好次（順不同）

祭主 指図方	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	片山勲	老木邦光 西山道教	賛者 岩橋元博	原口 実
地 方	てをどり	大教会長 片山勲 寺本教生 会長夫人 前 会 長 片山孝代	岩橋慶三 長谷川邦昭 窪田靖明	岡崎八十則 奥村龍夫 老木俊彦
ち ゃ ん ぼ ん	拍 子 木	太 鼓	す り が ね	小 琴 鼓
三 味 線	胡 弓	大教会長	岩橋竜造 西山道教 老木邦光 岡崎マローン 井上 哲 大西 知 片山やすゑ 長尾澄子 鳥澤むつ代	向所隆文 吉田晴雄 篠原丕王 雲庵春彦 後藤正治 永島宗行 斉藤かよ 向所千夏 片山美穂
ご あ い さ つ	大教会長	田中丸勝也 長瀬充憲 岩橋守行 高島栄造 文岡邦人 宮路和徳 高垣洋子 ソー・リン 上田敬子	大上道徳 片山直明 寺本邦一 原口和子 梅木澄代 菅岡和美	伊東康成 高垣光治 片山和信

創立百二十周年記念祭祭文

立教百八十五年五月二十一日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には世界一れつの子供に陽気ぐらしをさせたいとの深い思召から天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に教祖をやしろによろづいさいの元の理をお説き明かし下され、たすけ一条の道をお啓き下さいました

爾来教祖には五十年の長きに亘り幾重の道すがらを御自らお通り下され、ながたの道をお遣し下され、尚も今日の道の状にお導きお育て頂いております御高恩の程は一日とて忘れることはございません

その中にもこの本島大教会は親神様・教祖の厚き御守護のまにまに明治三十五年十一月三十日（一九〇二）この本島の地に設立のお許しを戴きましてより本年は早くも創立から数えて百二十年の節目の年を迎えましたので、理のお許しを戴き今日の吉日に創立百二十周年記念祭を勤めさせて頂けますことはこの上もない喜びでございます

御前には今日の日を持ちかねて大教会の理にながら教え子達が折からの世界中に広がる事情の中も厭わず国の内外から馳せ集い、元一日の思いも深く今日までお育て頂きました御高恩に御礼申し上げつつ、只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに揃えて座りづとめ・てをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

親神様にはこの真実の状を御覧下さいまして尚も自由の御守護を賜りますようお願い申し上げます

顧みますれば明治二十九年一月（一八九六）天理教越乃國支教会布教師佐藤栄佐先生によりこの本島の地に御教えの種が蒔かれてその芽生えの増え行く中親神様のお手引きにより不思議な御守護を頂かれた片山好造がその一身を御恩報じの道に捧げるとの固い心定めを以てひたすらたすけ一条に努め励まれ、明治三十五年十一月三十日本島布教所設立のお許しを戴き早速に布教公認を地方庁に願ひ出されましたが計らずも却下されるに至りました

この節に先人方々は「海外に道を開け」との親神様のお急込みであると明るく大きく悟り、海外に教勢の基盤を固め、明治四十二年二月九日には片山好造が本島支教会長の重き理のお許しを戴き河原町越乃國両上級教会のお導きのもと導きおちばの理に護られ次々と教勢発展の御守護を頂いてまいりました

爾来今日までの道すがらには幾重難難の道を常に大きな親心に育まれて結構にお連れ通り頂いてまいりましたことを心から厚く御礼申し上げる次第でございます

本日創立百二十周年記念祭を勤めさせて頂くに当たりまして、改めて元一日の理を心の要として、たすけ一条に心を揃え、つとめとさづけの徹底を以て親孝心に励み、来たる教祖百四十年祭に向かつて一手一つに勇んで門出させて頂く決心でございます

親神様にはこの心定めをお受け取り下さいまして国々所々の名称の理がそれぞれたすけ道場にふさわしい賑わいをお見せ頂き一れつ兄弟姉妹の思召をもつて一日も早く陽気ぐらしの世の状にお導き下さいますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

記念祭ダイジェスト



創立120周年記念祭に向かって
の3年間

記念祭3年前の立教182年1月22日、創立百二十年周年記念祭に向かって「成人目標を発表」「二手一つに皆結んでくれるなら、どんな守護もする」

(おとしづ M31・1・19)

「教祖のひながたを辿る」「おつとめの勤修」「初席者、また中席者を丹精して満席へ」「道の将来を担う人材の育成」の4項目を掲げ、記念祭に向かう3年間の活動が始まりました。

ところが翌立教183年4月より新型コロナウイルス感染拡大のため、ほとんどの本部行事や大教会行事が中止。さらに海外から日本への渡航が制限される事態となりました。

そこで立教183年5月より、大教会祭典のインターネット・ライブ中継を開始、大教会と海外教会をつなぐことに取り組みました。また海外教会長による動画での大教会神殿講話も二度行われました。

立教184年6月からは、青年会本島分会(片山秀明委員長)が週末、大教会や詰所に集ってひのきしんを行う「ウィーケン隊」を開始。次第に参加者が増え、記念祭準備への大きな原動力となりました。

この年の10月25日、「臨時祭典願」のお運びにより、創立120周年記念祭の理のお許しを戴きました。

またこの日に「教会長夫妻一手一つ決起大会」を本島詰所に開催。152名が参加し、記念祭に向かつての決意を新たにしました。

公式マスコット



「カンタリー君」を公募し選定。LINEスタンプや、記念祭ポスターを作成するなど、記念祭を身近に盛り上げる一助となりました。

記念祭おつとめ役割は半年前に発表。3ヶ月前より祭典前夜におつとめ修練部による稽古が行われました。

また直会に向けて、「カンタリーロード」のダンスや舞

台演奏の練習が毎月22日夜に行われたほか、コーラス隊を結成しての練習も定期的に行われました。

さらに有志ひのきしん者によって境内地の樹木剪定も大規模に実施し、境内地内はすっきりと風通しよくなりました。

ひのきしん隊

(青年会ウィーケン隊)

青年会本島分会が中心となって記念祭準備ひのきしん(ウィーケン隊)を、週末や祝日を利用して定期的の実施しました。特に今年の4月30日から5月5日に実施したゴールデンウィーケン隊(第40回隊)には40名以上の男女が参加しました。(参加者は9頁掲載)

神殿内は参拝場の障子すべて取り外したほか、廻廊に床机やパイプ椅子設置、屋外には本部営繕より借用した大型テント(3間×5間)7張を設置、カンタリーパークのテーブルや椅子を配置するなどしました。

船舶と大教会受け入れ

記念祭では参拝者の8割以上が島外から日帰りすることになり、このため定期便のほかに、児島観光港からチャーター便を手配しました。当日は、往路が午前8時20分から4船に250名、復路は午後3時から4時25分にかけて4船に277名が利用しました。

このチャーター便は、帰参者の乗船をスムーズにするために「チケットなし」とし、利用された教会には大教会会計室に船舶御供としてお支払い頂くことにしました。

駐車場は、丸亀港側の臨時駐車場に30台、児島観光港側は葬祭場アーバンホール児島の臨時駐車場に約90台の駐車がありました。

本島詰所からは日帰り帰参バス（マイクロバスレンタカー）2台を運行。本島学生会17名は21日午前0時に天理を出発し丸亀港からの始発便に乗船、大教会で受付や弁当配布ひのきしんを行いました。

一般帰参者は、往路21日午前4時天理発、午前7時30分児島観光港着、復路は午後4時児島観光港発、午後7時30分天理着で、23名が利用しました。

帰参受付と配布物

受付は神殿南側広場（カンタリーパーク）手前にテント2張を設営し、長テーブル8台を出して受付に当たりました。

本島港から大教会に到着した送迎バスは、神殿正面南側スロープ前に停車。到着した帰参者にはまず検温、アルコールによる手指消毒を行った上、受付にて一人ずつ教会



大教会帰参受付のようす



大教会パンフレット、しおり、記念品

名と氏名を記帳。続いてパンフレットと記念品、履物番号札を受け取り、南側テントより会場内へ入場しました。

ご参拝案内パンフレット

パンフレットはフルカラーA5サイズ観音折8頁で3千部印刷。記念祭当日の帰参者だけでなく、記念祭に参拝できなかった人や、これから大教会へ案内する人向けとして利用できるものです。なお各教会にも配布するほか、大教会と詰所に備え置きます。

記念品（今治ハンドタオル）

帰参者への記念品は今治製ハンドタオル（1辺約20センチ

チ正方形）。白生地知青糸で「ほんじま」と刺繍されたものです。

また教会への記念品は、書籍「十二下りのてをどりを身近に」深谷太清著・天理教道友社刊が後日下附されました。

密を避けた感染防止対策



祭典中の講堂のようす

新型コロナウイルス感染防止のため、帰参受付で帰参者全員の検温とアルコールによる手指消毒を行ったほか、建物内ではマスク着用を義務化、密を避けるために神殿内の着席は畳1枚につき2人以下、大声による会話の自粛、講堂にスクリーンを設置して講堂からも参拝できるようにしま

した。さらに神殿と講堂の扉は換気のため常時開放しました。

参拝者の体調不良に備え、信者会館1階に救護室を設置。現役の見護師が常駐しました。

また、記念祭に参拝できなかった人にはインターネット・ライブ中継の限定配信を実施。約80名が事前申込みを行い視聴しました。

折詰弁当

帰参者に用意された弁当は、10年前の記念祭と同じく株式会社中央（本社・高松市）の仕出し弁当80食（内、子ども弁当15食）。

弁当は午前11時15分着のフェリーで大教会に搬送され、ただちに係員と学生会ひのきしんの手により、弁当と500mlペットボトルお茶、クッキー、和菓子がポリエチレン袋にまとめられました。

弁当配布について、今回は引換券をなくし、帰参者一人ずつ受付へ弁当を受け取りに来るようにしましたが、混雑



神殿南側テント(カンタリーパーク)

なく配布することができました。

また残った弁当は無駄にならないよう、賞味時間内に宿泊者の夕食として提供しました。

カンタリーパーク

新型コロナウイルス対策により、従来型の直会(参拝者が密閉された場所に密集して飲食を行い、舞台演芸を楽しむスタイル)を改め、開放型飲食会場「カンタリーパーク」を開設。

これは神殿北側と南側広場にテントを設営し、講堂と合わせて机や椅子を広く設置して開放し、参拝者が自由に入りしながらか飲食を楽しんで

頂く形式で、アルコール飲料の提供も行いませんでした。

講堂舞台の演目



本島団鼓笛隊

講堂舞台では祭典終了後、午後1時46分より演目を開始。

- ①本島鼓笛隊演奏(約40名)
 - ②HKB120(本島カンタリーバンド120)歌演奏(デイ・ドリーム・ビリーバー、福笑)、映像上映、③女子青年ダンス(恋するフォーチュンクッキー)、④アニバーサリークアイヤー120コーラス(糸、ふるさと)、⑤総踊り「二合まいた」、⑥ハワイ地区メンバーによるダンス、映像、⑦総踊り(カンタリーロード)
- 演目は約70分間行われ、午

後3時に終了。その後、参拝者はゆっくり各自の時間を過ごしました。

キッチンカー

今回の記念祭では初めてキッチンカーを招いて営業を行いました。

(二社)香川県キッチンカー協会は、行政と提携し災害時に被災地で炊き出しを行うほか、各種イベントに派遣出店しています。

今回の記念祭には参拝者のニーズに応えられる4店舗(「N'sダイニング」「中津しょう油揚げ専門店げんきや」「コロ家」「西内花月堂」)が派遣され、神殿南側広場に



キッチンカー



て午前8時から午後4時まで営業しました(途中、祭典時は休店)。

大教会に外部団体を入れて営業することは初めての試みだったにも関わらず、参拝者には好評で、閉店前に売り切れとなる商品も続出しました。キッチンカーにより、会場が賑やかになること、食品衛生管理が安心できること、直営に比べ大勢の係員の手を必要としないことなど、多くの利点がありました。

和太鼓ほんじま「送り太鼓」

日帰り参拝者が本島港を発つ午後3時頃から午後5時10分発フェリーまで約2時間に

わたって、本島港にて和太鼓ほんじまによる「送り太鼓」演奏が行われました。本島を離れる帰参者の心に残る演出でした。

本島町内会来賓者名簿

富木田誠様(連合自治会長・宮ノ浜自治会長)
石井常和様(笠島自治会長)
岡田忠行様(山根自治会長)
山下博様(甲生自治会長)
大里敏夫様(泊自治会長)
芦内國廣様(小阪自治会長)
倉藤始様(大浦自治会長)
木下美保子様(福田自治会長)
柏野鈴子様(尻浜自治会長)
信原清様(生ノ浜自治会長)
岬嘉吉様(里浦自治会長)
横山仁様(小浦自治会長)
岡田剛様(丸亀市議会議員)

【内ご出席8名、ご欠席5名】

5月21日(土)
【香川県丸亀市】

天候 曇
最低気温 17.3℃
最高気温 22.9℃
平均気圧 1009.0 hPa
平均湿度 68 %
平均風速 1.8 m/s
日照時間 0.1 時間
降水量 0.0 mm

記念祭タイムスケジュール

◇5月19日(木)

19:00 タづとめ
記念祭打ち合わせ(大教会長挨拶、全体説明、各係に分かれて打ち合わせ)
20:30 カンタリーロード・ダンス練習

◇5月20日(金)

6:15 朝づとめ
8:30 ひのきしん者朝礼(神殿前にてラジオ体操、遙拝、記念撮影)
8:50 各係に分かれて準備
13:00 カンタリーパーク演芸リハーサル(講堂)
19:00 タづとめ
20:00 雅楽練習



◇5月21日(土)

6:15 朝づとめ
6:45 丸亀からの一便到着、帰参受付開始、本島学生会、キッチンカー4台到着
7:55 献饌、祭典準備開始
8:00 キッチンカー開店
8:20 献饌(親神様・教祖・祖霊様)
8:54 献饌終了
10:40 児島からのチャーター便が到着
10:52 教会長夫妻、神殿結界内集合
大教会長、世話人メッセージ紹介

11:00 創立百二十周年記念祭執行

親神様・教祖・祖霊様礼拝

11:10 記念祭文案奏上

11:28 座りづとめ

11:43 てをどり

12:53 大教会長、真柱様メッセージを代読。続いてご挨拶

13:17 親神様・教祖・祖霊様礼拝

記念祭終了

13:20 記念撮影(参拝場内)

13:33 献饌、折詰弁当配布

13:46 カンタリーパーク演芸開始

13:48 本島団鼓笛隊演奏

14:02 HKB120演奏

14:15 本島女子青年ダンス

14:25 コーラス(糸、ふるさと)

14:34 一合まいた

14:43 ハワイ・フラダンス

14:50 カンタリーロードダンス

14:58 カンタリーパーク演芸終了

15:20 児島行きチャーター便出発

16:00 キッチンカー営業終了

19:00 タづとめ

ゴールデンウィーク参加者(順不同)

期間 4月30日～5月5日

片山秀明 香川高範 伊東賢太郎 内橋和博
香川靖幸 鎌田康典 吉田貴慶 後藤真也
白垣俊生 伊東慎平 菅岡繁理 菅岡勇祐
池田恒治 片山誠 佐々木徳太郎 牧野善明
牧野元治 向所慶太 上山薫 日永祐人
鎌田仁史 大西太一 兵頭亜弥乃 兵頭莉乃
田中ゆりか 横山正次 横山富明 真柴ロベルト
小西圭 山下道貴 片山直明 井上周郎
井上日菜子 吉田邦恵 窪田卓夫 井上壮太郎
井上千絵 宮武誠 宮武茂 茶屋原良昭
吉田旬音 三浦智彦ほか

このたびの記念祭を振り返り、本島通信にどうしても書き残しておきたいことをここに記したいと思います。

創立120周年記念祭は、これまでの記念祭と異なり、初めてのことが多かった。真柱様のお入り込みがないことに加えて、世話人先生も急なご都合で欠席となり、一同とても寂しい気持ちになりましたが、カンタリーパークでは大教会長夫妻が帰参者一人ひとりに声をかけ挨拶されたり、写真撮影に応じられたりしていたのがとても有難かったです。

大教会在籍の青年と女子青年が少なく、青年会が週末ひのきしん「ウィーケン隊」を実施してきました。これが大活躍でした。ひのきしん者によるカウントダウン写真を本島ドットコムにアップしました。

数年ぶりアメリカから22名の教会長や信者が帰参されました。大教会の体温が少し上がって明るくなった印象を受けました。

祭典ライブ中継は25回目になりました。特に海外教会では大切にされていることを知りました。

個人的にはお弁当についていたクッキーと和菓子がとても美味しかったです。

パンフレットの写真は、3年間で1万枚以上撮影した中からのセレクトです。

帰参報告やキッチンカーチケットはインターネットの申込みフォームを作成して受け付けました。とても簡単で、今後この形式も有効であることが分かりました。全員で撮影した記念写真は、皆さんとてもよい表情です。大きくプリントし、詰所写真の間に掲げる予定です。

【本島通信編集室】

創立120周年記念祭 帰参受付数(直轄別・受付係扱い分)

本樺	島太	57	本宮	濱	5	本新	田	5
本樺	太樺	19	本承	徳	7	本九	台	6
本本	樺室	7	本山	福	3	本豊	後	4
本本	室谷	6	本藝	海	1	本肥	肥	0
本本	谷京	44	本府	中	44	赤峰	峰	154
本本	京浜	12	本中	中	1	ホノ	ル	9
本本	浜崎	50	本中	國	5	ヒ口	口	0
本本	岡崎	4	本沖	浦	3	マウ	イ	3
本本	攝邦	52	本馬	尾	0	ポート	ランド	4
本本	篠篠	12	本本	亀	5	イリ	ノイ	0
本本	海海	10	本清	水	2	ミッド	ウエスト	1
本本	朋朋	1	本崇	徳	16	キャピタル		1
本同	徳徳	37	与本	島	9	サザン	パシフィック	2
本仁	柳柳	0	本本	廣	13	ウイル	ソン	1
本張	口波	1	本本	勇	10	カリ	フォルニア	2
本那	波岡	0	本宣	高	3	シー	タック	0
本撫	岡川	2	本阿	道	9	本伯		1
本琴	川浦	0	本阿	徳	3	本島	島内	23
		4	本本	波	0	所属	不明	11
		25	本本	九	35			

帰参者合計 744名

本島大教会5月月次祭 神殿講話(要旨)

【立教185年5月22日】

教祖年祭活動スタートの前に 心の準備を整えよう

大教会長 片山幹太

昨日は創立120周年記念祭を皆さまと共に意義あらしめ勤めさせて頂くことができました。誠にありがとうございました。

引き続き本日は5月月次祭を一手一つに勤めさせて頂くことができましたこと、重ねてお礼申し上げます。さて、昨日頂きました真柱様メッセージから一ヶ所振り返らせて頂きたいと思います。

「教祖の教えは、変わることはないのであります。しかし人の心の向きは変わり易く、時折思い直すことが必要だと思えます。自分たちは毎日一生懸命に勤めているつもりであっても、知らず知らずのうちに、最初目的としたのとは違うところへ進むようなことをしているかもしれません。それが小さ

なずれであっても、そのことに気が付かずに進んでしまったならば、やがては大きな狂いとなり、目的地を見失って、大変な結果を招いてしまうことにもなりかねないであります。」

これは、あるラーメン店のお話です。その店主は自分の作る美味しいラーメンを通して、人々に幸福感を味わってほしいと努めていたところ、次第に評判となり、ついには毎日長い行列が出来るほどのラーメン店に成長しました。

すると店主は次第に、長時間お客様を待たせることが申し訳ないという考えが芽生え、少しでも回転率を上げるために麺を細くして茹であがる時間を短縮したり、スープを飲み干せないように辛めにしたりと工夫

しました。

すると常連のお客様から「ラーメンの味が落ちた。以前より不味^{まず}くなった」と囁かれるようになり、ついには行列どころかお客様の入りが悪くなった、というお話です。

その店主の「お客様に喜んでほしい」という気持ちは一緒でしょう。しかし、最初は一杯のラーメンを通してお客様に幸福を感じてもらおうという目的から、待たせるのが申し訳ないので待たずに食べられることが目的になってしまい、味よりも回転率に目的がずれてしまったということです。

私たちの教会も似たような間違いをしていないでしょうか。

教祖の教^{おしえ}を定規に心を正し、陽気ぐらしへ近づけるようおたすけさせて頂くことから、いつの間にか世界の考え方や流行に迎合し、スムーズに無駄なく運べることや、通りやすい導き方をしていくことになっていないでしょうか。

か、い、の、・、か、り、も、の、の、教、理、元、の、理、お、つ、と、め、お、さ、づ、け、ひ、の、き、し、ん、な、ど、その、教、え、の、意、味、を、ま、ず、私、た、ち、が、身、に、つ、け、て、不、器、用、な、が、ら、も、人、様、に、こ、の、教、え、を、伝、え、て、い、く、努、力、が、大

切であると思います。

ある海外教会の月次祭に行つたときのお話です。

祭典が終わり、直会^{なおらい}準備の時間、応接室で待たせてもらっているとき、その教会長の娘の夫とお話させて頂く機会がありました。

その夫は天理教の信仰者というほどもないのですが、「天理教のお祭りは良いですね」と仰るのです。私はてっきり教会の月次祭に感激してくれたのだと思っていましたら、「天理教のお祭りは月1回なのが良いです。私は以前キリスト教の教会にも通ったことがあります、あそこは毎週1回ありますから、月に何度も教会に行かなくてはなりません。」と話が続いたのです。

私は「そこかいな」とずっとこけそうになりましたが、その夫はさらに次の言葉を語ってくれました。

「天理教は月1回なので、1回休むと2ヶ月も空いてしまいますね。2回休むと3ヶ月も教会のお祭りへ行かないことになってしまい、心が離れてしまいます。ですから、毎月欠かさず月次祭に参拝することが大切ですね」

私たちは教祖から日日が大切だと



前から36年前の教祖百年祭のとき、真柱様は「白紙に戻り一より始める」こ

教えて頂きます。朝夕のおつとめを通して心のほこりを祓い、日日教えを実践する。月次祭を休むようなことがあれば、下手すると小さなずれに気づかず、目的地を見失ってしまふ結果になりかねません。おふでさきの最後のお歌はこれをはなれつ心しやんたのもで

(十七号七五)

「二れつ」とは世界中の人々です。「しつかり思案を頼みますよ」というお歌で締めくくられているのです。私たちに託されたお歌だと思えます。本席様の最後のおさしづでも皆々物々思案無くばならん

(明治40年6月9日)

と教えられています。思案しなければだめですよ、というお話です。ですから私たちは日日教えに基づいた思案をしていく努力が大切ではないでしょうか。

とを論達で示してくださいました。そして次の教祖110年祭では皆、いつ年祭の打ち出しがあるのか待っていたところ、真柱様は本部員や直属の教会長様に「教祖年祭活動を勤めるのか、勤めないのか、皆で話し合ってください」というお仕込みがあったと聞きます。

それまでは10年に一度の年祭活動が当たり前に勤められてきました。110年祭からは、真柱様から人々に託された。それから、言われて勤める年祭から、我々が思案して心定めて勤めさせて頂く年祭に変わったように思います。

言い換えると、100年祭までは小学生のような信仰姿勢と申せましょう。あまり深く思案できなくても、どんな教えてもらい、言われるまま勤めたら良いのが小学生時代です。そこから中学生になると、少しずつ自我が芽生え、いわゆる反抗期になります。なんでこんなことしないといけないのかとか、他のやり方もあるのではないかと。

たとえば、おつとめを勤めたい。おさづけを取り次げばいい。確かにこれは正しいことでしょう。しかし次の成人の段階として、自

らがつと深く思案を掘り下げながら、おつとめもおさづけも自発的に真剣に勤める通り方が求められているのではないのでしょうか。

この教祖140年祭も言わば小学生から中学生に一つ成人した年祭活動をお互い目指したいと思うのです。そして次、17歳になると別席を運

べる年齢になります。つまり親心が分かる年齢となり、親の心にみずから近づくことができる年祭活動へと段階が進んでいくように思います。

昨日の真柱様メッセージには、「親神様は、人々の決意をお受け取り下さり、末代続く理として教会名称の理をお許し下さったのであります。」

とのお話がありました。

私たちの心に親神様はお働き下さいますので、私たちの心がどれだけ信仰に基づいているか、人間思案ではなく親神様の教を定規にしているか、素直な心になっているか、ここが大事になってくるのではないかと思います。

まずは思案を深め、実動してみる。もし間違っていたらやり直してみる。または、もう少し粘ってみる。など、いろいろ話し合いながら、陽気ぐら

し世界へと歩みを進めさせて頂きたいと思います。

最後に「みちのもと6月号」に、「教祖百四十年祭三年千日を前に、いま教会長としてすべきこと」と題して両統領インタビューが掲載されています。

教会長はまずこれをしつかり読ませて頂き、心の準備を整えさせて頂きましょう。

来年1月から年祭活動が始まります。表統領はインタビューで「教会長さん方には、まず教祖の年祭の理というものをしつかり心に治めて、来年1月から年祭活動をスタートする際、信者さんから『教祖の年祭って何ですか?』『三年千日の活動って何をしますか?』と尋ねられたとき、きちんと答えられるようになってほしい」と仰せられています。

お互い年祭活動の「用意ドン」の「用意」段階である今、しつかり心の準備をさせて頂きましょう。そして年祭に向かって三年千日、少し自分に厳しく歩ませて頂きたいと思う次第です。

ご清聴ありがとうございました。

五月月次祭 祭典役割

献饌長 老木邦光
山下英久・香川勝巳・山本泰
三・川村吉夫・ソージミ
白垣初生・木村太喜
雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・
香川轟・上山薫・伊東賢太郎・内橋
和博・鎌田康典・伊東博平・鎌田仁史・
吉田貴慶・香川靖幸・佐々木徳太郎・
白垣俊生・片山幹太郎(順不同)

伝 供 岡崎マローン・篠原丕
王・永山晴明・吉田晴雄・向所
隆文・原口実・伊東康成・雲庵
春彦・岩橋元博・片山直明・吉
田知彦・文岡邦人・高島栄造・
長濱充憲・寺本邦一・宮路和徳・
茶屋原良昭・肥後章・鎌田典夫・

祭主 指方	大教会長	座りづとめ	てをどり前平	てをどり後半
	西山道教	扨者	大西知	賛者 大上道徳 片山和信
地 方	片山 勲 井上 哲 大西 知	窪田 靖明 永山 晴明 高垣 光治	岩橋 元博 片山 直明 文岡 邦人	原口 実 伊東 康成 片山 和信 向所 千夏 梅木 澄代 大上 鈴乃
	大教会長 高島清弘 岩橋慶三 会長夫人 片山やすゑ 長尾澄子	平井真治郎 岡崎八十則 奥村龍夫 鳥澤むつ代 岩橋元実 久尾智代	肥後 章 茶屋原良昭 ソージミ 雲庵 春彦 高島 栄造 岩橋 守行 原口 和子 伊東 晴美 片山 美穂	吉田 知彦 雲庵 道延 吉田 晴雄 大上 道徳 篠原 丕王 向所 隆文 片山 孝子 雲庵 まち子 吉田 要子
てをどり	岩橋 竜造 久尾 マーク 寺本 教生 老木 邦光 長谷川 邦昭 岡崎 マローン 池田 さわみ 斉藤 かよ 向所 暉美子	ちやんぽん 拍子木 太鼓 すりがね 小鼓 三味線 胡弓	神殿講話 大教会長	

五月月次祭祭文

立教百八十五年五月二十二日

これの神床にお鎮まり下さいます親神天
理王命の御前に天理教本島大教会長片山
幹太慎んで申し上げます。

親神様には世界一れつをたすけて陽気ぐ
らしの世へ立て替えたいとの思召から旬
刻限の到来と共に教祖を月日のやしろに
貰い受けられこの世の表にお現れになり
元始まりの真実を明かしよろづたすけの
つとめを教え、さづけの理を渡して成人
の道恙なくお連れ通り下さいます御慈愛
の程は誠に有難く勿体ない極みでござい
ます

私共は届かぬながらも世界たすけの御用
の上にそれぞれの持ち場立場をお与え頂
き努め励ませて頂いておりますが、その
中にも今日の吉き日は当大教会の月毎の
御祭りを勤めさせて頂く定めの日柄でござ
いますので役目に与るおつとめ奉仕者
一同心を一つに合わせて陽気に勇んで座
りづとめてをどりを勤めさせて頂きます

御前には昨日に続いて遠く海外をはじめ
親元を慕って帰り集いました教え子達が
喜びの心も深く日頃積み重ねる御恵み
と親心にお礼申し上げ尚も尽きせぬ御守
護にお縋りする真実の状をご覧下さいま
して親神様にもお勇み下さいますようお

願ひ申し上げます

更には昨日かねてより成人の一里塚と定
めて目指してまいりました創立百二十年
年記念祭に忝くも真柱様から親心こもる
メッセージを賜り私共はこのお言葉を新
たな門出の指標とさせて頂き、ことに来
たる教祖百四十年祭に向かって教祖のひ
ながたをたどらせて頂く上に新たな決意
とさせて頂く所存でございます

親神様には何卒この真実をお受け取り下
さいまして教会内容の充実はもとより私
共の一層の成人を目指し心を一つに揃え
たすけ合い勇まし合って陽気ぐらしへの
道へとお導き下さいますよう一同と共に
慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

▼マウイ△小野由貴

【計1名】

5月22日(日)
【香川県丸亀市】
天候 快晴
最低気温 14.7℃
最高気温 26.8℃
平均気圧 1006.4 hPa
平均湿度 67 %
平均風速 2.3 m/s
日照時間 13.0 時間
降水量 0.0 mm

事情はいづ

(立教185年5月26日)

本宮濱分教会

神殿修築願

臨時祭典日変更願

鎮座祭 立教185年6月18日

奉告祭 立教185年6月19日

マリーナ教会

神殿修築願

鎮座祭 立教185年8月5日

奉告祭 立教185年8月6日

おさづけの理拝戴

(立教185年4月分)

本島 山田綾子

本静濱 山口成美

本幹 宮地隆基

本豊後 中井久仁栄

肥後八峰 森 光征

都峰 辻本麻衣

【計6名】

おさづけお取り次ぎ報告

(立教185年5月22日)

提出教会 14教会

報告数 552回

本年累計 6,314回

修養科第96期修了

(立教185年4月27日修了)

肥後八峰 森 光征

新信峰 柏岡早秋

【計2名】

教人資格講習会修了

(立教185年5月11日付)

都峰 内野雄一朗

【計1名】

をびや許し

(立教185年4月分)

本米浜 佐野秀美

攝津 鎌田いつほ

本新郷 森重ちはる

文峰 安枝知己

【計4名】

証拠守り下附

(立教185年4月分)

本肥港1

【計1名】

大教会長動向

▼6月(予定)▲

3日、教区役職者会議

5日、ウィーケン隊最終回

6日、本宮濱分教会遷座祭

12日、教会長夫妻特別講習会

17日、大裏田植えひのきしん

18日、仁徳分教会

和田敏恵会長一年祭

18、19日、本宮濱分教会鎮座祭

会長就任奉告祭

22日、大教会月次祭執行

24日、修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27、28日、一期講師各期研修会

30日、本部神殿奉仕当番

以上

計報

本島大教会役員
澁谷分教会前会長

永島精一氏



永島精一氏(大教会役員、澁谷分教会5代会長)は去る令和4年4月23日午前2時49分お出直しになりました。享年84歳。葬儀はみたまうつしを4月27日に、告別式は翌28日午前11時より澁谷分教会において、大教会長斎主のもと執り行われました。

永島精一氏略歴 昭和12年9月8日生まれ。昭和40年5月11日、永島タキエと結婚。昭和40年11月22日、大教会神殿奉仕人指名。昭和41年2月2日、おさづけの理拝戴。昭和42年3月28日、修養科第309期修了。昭和46年1月17日、「みちの子道場」道場開き。昭和49年10月19日、教会長資格検定合格。同年11月6日、教人登録。昭和57年10月21日、大教会准役員登用。昭和61年7月26日、澁谷分教会5代会長拝命。平成3年4月より、修養科第600期一期講師。平成4年10月22日、大教会役員登用。平成14年9月26日、澁谷分教会長辞職。立教172年2月22日、本島大教会創立110周年記念祭小委員会委員。教会長在職期間16年2ヶ月間。大教会神殿講話は6回勤められました。

よこひこと 慶事

西森俊彦氏(栄森峰分教会後継者)



孝子さん夫妻に4月25日第二子次男が誕生しました。「幹田」と命名。

計報

本廣島分教会2代会長夫人

大西孝子姉

おおにしなこ 大西孝子姉(本廣島分教会2代会長夫人)は去る4月30日お出直しになりました。享年95歳。

大教会からの お知らせ

5月22日教会長会議連絡事項

立教185年 本部昇殿参拝

【総務部】

6月26日本部月次祭昇殿参拝ご希望の方は、詰所事務所へお申し出ください。

●**服装**：ハッピー、ネクタイ。女性はこれに準ずる

※マスクを必ずご着用ください

●**担当**：平井真治郎役員

みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

●**日時**：6月26日午後1時～2時

●**会場**：第二食堂

●**講師**：須田実(天理高校第二部教諭)

夏のおぢばがえり

【少年会本島団】

本島大教会夏のおぢばがえり

●**期間**：7月26日(火)～8月1日(月)

鼓笛隊夏季練習

【本島団鼓笛隊】

本島団鼓笛隊 夏季特別合同練習会

●**期間**：7月27日～7月31日

●**会場**：本島詰所

●**内容**：特別企画“鼓笛お供演奏”
“鼓笛オンパレード”出演予定

第30回女子青年大会

【婦人会本部】

●**日時**：11月27日(日)午前10時

●**場所**：本部中庭

※午後から詰所にて支部行事

青年会ひのきしん隊

【青年会本島分会】

おやさふしん青年会ひのきしん隊第903回隊

●**期間**：6月2日～18日(5、12日を除く)

●**時間**：午前8時集合、午後5時頃解散

●**集合場所**：本島詰所、集合した後、第百母屋へ向かいます

●**参加対象**：青年会員層

●**参加御供**：参加者1名につき500円(1日ごと)

●**現場**：旧本芝詰所解体作業、大裏農作業、岩室倉庫場内整備、さんさいの里整備作業など

●**持参品**：手袋、ベルト、帽子、タオル、アンダーシャツなど

※男性には隊服、ヘルメット、安全靴を貸し出します。

※2週間以内に発熱があった方はご遠慮ください

※コロナウィルス感染状況によって、急きょ中止になる場合があります

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

●**期間**：令和4年8月8日～8月12日

●**受講対象**：高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可)

●**募集人員**：700名

●**内容**：レクチャー、ひのきしん、おてふり、レクリエーションなど

●**集合**：8月8日正午(昼食を済ませてからご集合ください)詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。

●**解散**：8月12日午前10時30分(予定)

●**受講御供**：10,000円(詰所に納めて下さい)

●**申込方法**：次の書類を調べ、大教会長の署名・捺印を頂いた後、学生担当委員会事務局へ申し込んでください。

①受講願書1通、②返信用封筒(保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、84円切手を貼付)

●**申込期間**：5月25日～7月25日(事務処理の関係上、願書はなるべく7月18日までに提出して下さい)

●**お問合せ先**：学生担当委員会事務局(0743-63-2489)

大教会6月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

●**対象**：6月22日大教会6月月次祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方

●**申込方法**：

メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。



●**申込締切**：6月21日午後5時まで

●**ご注意**：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。

6月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈本部食堂ひのきしん〉

●**期間**：6月1日～15日

●**派遣**：澁谷

〈大教会・食堂ひのきしん〉

●**期間**：6月21日～22日

●**派遣**：安藝本中

〈詰所・食堂ひのきしん〉

●**期間**：6月25日～26日

●**派遣教会**：本浜①、赤峰②

総 計 (4月1日～30日)

教会名	初席	中席	雲石座	修養科	教人講習	検定講習
本島			1			
本静濱			1			
本邦	1			1		
本幹				1		
本水島	1			1		
本豊後		1				
吉峰		2				
雄福峰	4	2				
大隅聖峰		2				
別峰		1				
肥後八峰			1	1		
新信峰				1		
鶴峰		1				
都峰			1			
カリフォルニア						1
合 計	6	7	6	2	0	1

<https://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト